



## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	5-3-1			事業名	札幌駅交流拠点再整備構想策定事業		
<b>達成目標の状況</b>							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
札幌駅交流拠点再整備構想の策定	-	検討	検討	検討	策定	策定	
<b>市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)</b>							
<p>市民との連携、市民参加 市民アンケート及び市民検討会を実施し、市民意見の把握に努めた。(H21) 将来のまちづくりの担い手である学生の意見を構想に反映させるため、大学生によるワークショップを実施する予定。 構想案策定委員会において、構想案が策定され、市が提言を受けた段階でパブリックコメント等の手法で市民参加、情報共有を図る予定。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力](該当なし) [人材協力](該当なし) [情報協力] JR北海道との情報共有を行う。 [その他の協力](該当なし)</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり 市民への情報提供の一環として、札幌市市民情報センターが実施するラジオ放送「そら色ステーション」を活用した。</p>							
<b>評価(成果)</b>				<b>課題</b>			
<p>平成21年度に有識者などからなる構想案策定委員会を立ち上げ、検討を本格化することができた。このことにより、平成22年度中の構想の策定を確実なものとする環境が整った。 札幌駅周辺地区の将来について、市民アンケート及び市民検討会を実施したことにより、市民意見の傾向を把握するとともに、構想案の検討に際し、重要な参考資料とすることができた。 これらのことにより、道都札幌の玄関口としての札幌駅交流拠点について、将来のまちづくりの方向性を明らかにすることができ、今後の再整備事業を推進する環境が整う見込みである。</p>				<p>駅前通地下歩行空間の整備、創成川通のアンダーパス連続化・親水緑地空間整備の実施や、北海道新幹線の札幌駅乗入れ、路面電車の延伸・活用検討等、札幌駅周辺に係る各種整備・検討が進む中、それらを総合的に考慮したうえで、関係者との調整を行い、再整備構想の策定に取り組む必要がある。</p>			
<b>今後の事業の予定・方向</b>							
<p>構想策定により、札幌駅交流拠点の将来のまちづくりの方向性が明らかになることから、以後、これに基づいた再整備事業を、官民協働で推進していく。</p>							

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		5-3-1		事業名		札幌駅交流拠点再整備構想策定事業	
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	0	8,000	10,000	4,000	22,000	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	4,000	5,000	0	9,000	
	市の債	0	0	0	0	0	
	その他の財源	0	0	0	0	0	
予算	事業費	0	8,000	10,000	6,000	24,000	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	4,000	5,000	3,000	12,000	
	市の債	0	0	0	0	0	
	その他の財源	0	4,000	5,000	3,000	12,000	
実績	事業費	2,835	7,560	9,864	-	20,259	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	3,780	4,932		8,712	
	市の債	0	0	0		0	
	その他の財源	0	0	0		0	
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)				119.4%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度] 平成20年度末に設置予定の構想案策定委員会は平成21年度に設置することになった。							
[21年度]							
[22年度]							